

平成29年 第2回 交野市総合教育会議

日 時 平成29年11月15日(水) 10:30～

場 所 交野市役所3階 第2委員会室

出席者 市長、八木教育長、尾崎教育長職務代理者、亥埜教育委員、伊丹教育委員、長谷川教育委員

事務局 学校教育部：北田部長、竹田課長、木村課長 教育総務室：河野教育次長、後藤課長

学校規模適正化室：大湾部長、和久田次長、殿山課長

生涯学習推進部：竹田部長、小川部長、本多課長、真鍋課長、清水課長、川村課長

企画財政部：良部長、藤原次長、南課長、松浦課長代理、北川主任

傍聴者 1名

【案件】

1. 全国学力学習状況調査の結果について
2. 学校規模適正化について
3. 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条に伴う平成30年度予算に係る意見交換について

【開会】

黒田市長 ただいまより交野市総合教育会議を開催いたします。まず本日皆様のお手元に配布しております資料につきまして事務局より説明いたします。

事務局 資料の確認をいたします。まず会議次第、次第2の全国学力学習状況調査の結果に関する資料、次第3の学校規模適正化に関する資料、最後に次第4の地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条に伴う平成30年度予算に係る意見交換についての資料、以上をお手元に配布しております。

【議題：全国学力学習状況調査の結果について】

黒田市長 それでは次第に則って進めます。

次第2「全国学力学習状況調査の結果について」を議題とします。既に教育委員会事務局から結果報告がなされているとは思いますが、改めてこの総合教育会議の場で、市長部局として、また教育委員会部局として、結果について情報共有を図るとともに、結果を踏まえた今後の教育の方向性や、重点的にどこに力をいれていくのかについてご意見を頂戴したいと思います。それでは資料に基づき担当より説明をよろしく申し上げます。

事務局 資料1に基づいて説明

黒田市長 本件に関し、教育委員として、今後の教育の方向性、力を入れていくべきと考えられる点等についてご意見を出して頂けたらと思います。私も含めて意見交換をさせていただけたらと思います。

尾崎職務代理者 結果概要①に、今年度の平均点数と平成21年度からの経年比較を示していますが、平成26年度の小学6年生が今年度平成29年度の中学3年生にあたり、その伸びが非常に著しいということで、非常に好ましいことと考えています。同時に平成29年度と平成26年度を比較すると、小学6年生でも伸びており、大きく見て市長が力を入れている35人学級の成果が大きく出ていると理解できていると思っています。小学校の方は、平均正答率では全国を下回りますが、学力テストというものは地域性や、その時の学年の状況により値が変動する、統計的にも5%位は上下すると言われていいます。その中でも平成21年度からの経年比較を国語Bで見ると、今年度の6年生の結果が最も良く、(全国平均との)差を縮めています。国語Aや算数Aは知識技能で、旧来の学習方法によっても一定の成果をあげることができる、つまり塾等でも、また繰り返しやるとできるということですが、Bに関しては、授業改善や、学級の環境を良くするとか、そういった様々な総合的なことが必要となってきます。そういう意味で平成29年度の国語Bは頑張っているのではないかと思います。ただ諸手を挙げて頑張っているとは決していえないので、最終ページにあるような、市教育委員会としての後半の取組は今後強めていかなければならないと思いますが、一定成果をあげているのではないかと思います。それはもちろん職員の頑張りがその背景にあります。それをバックアップする行政として、市長に力を入れていただいた35人学級が効果をあげており、今後、将来にわたり成果がみられるのではないかと考えています。

亥埜委員 結果概要②の自学自習力の向上のところが全国平均を下回る、「家で授業の復習をする子どもたちを育てる」という部分が全国平均を下回るということですが、これは授業づくりが充実して、学校で理解できたから復習はしなくていいということなのか、それとも勉強する習慣そのものがないのかどちらでしょうか。今は中学生になると塾に行っている子がほとんどですが、もう少し自学自習力を上げるためにはどうしたらよいかということは今後の課題かと思っています。やはり自分で勉強するのが一番身に付くというのは間違いないことであって、いくら授業を受けても自分の頭で考えないことには身に付かない。前々から思っているのですが、最近特に学習を見ているとそのあたりの力が落ちていると感じるので、どうにかならないものかというのが私の思うところです。

黒田市長 評価すべき点、あるいは課題点、どちらでも結構です。数字だけではなかなか見えない部分というのがあると思いますが、いかがでしょうか。

伊丹委員 資料最終ページの今後の取組の「⑤読書推進活動の定着」ということで図書館アドバイザーの活動を通じて積極的に図書館を活用してくということ掲げられていますが、以前、倉治小学校に視察に行った際に、図書館アドバイザーさんが非常に活躍されているということ伺いました。子ども達の授業を拝見すると、やはり皆さん積極的に取り組まれているということと、普段の学習とは違いグループで色々考えて意見を出し合うことによって国語的な能力の発展にも繋がるし、それ以外の教科にも影響があるということで、非常に良い取組だと感じました。一方で、担任の先生によって利用するか否かに差があったり、能力のあるアドバイザーのいる学校とない学校があったりということで、うまく活用できないところもあるだろうし、予算的にも人件費がかかるので、もっと雇いたいけれどもなかなか人を入れられないという難しさも感じました。今後、もっとアドバイザーを入れられるように予算的な配慮をいただきたいと思っています。

黒田市長 予算要望ですね。

最終のまとめは、結果を踏まえて教育委員会として今回の結果を分析してどこに力をいれていくのかをまとめたものだということですが、私の方からいくつか確認したい。まず尾崎職務代理者の方からの、確かに35人学級の成果が一定出ている、特に国語Bについては、この3年で小学生も、大きな傾向としては力をつけてきていると見受けられるのではないかという評価です。先ほどの説明ですと平成26年6年生の子どもが今年中学3年生で、中学生に関しては全国平均をしっかりと上回っている、3年前と比べると3年間で着実に力をつけてくれている、これは事実だと思いますが、小学生においては、力をつけてきているものの、まだ全国スタンダードには追いついていないということが課題ですよ。私も決して学力至上主義者ではありませんが、当然そういったきめ細やかな教育が、しっかりと成果として出てくることを望んでいる訳です。また、亥埜委員からご意見をいただいた、自学自習や、いかに子ども達が日々学習をして身に付けるかということと、結果概要②の学校質問紙の中で、先生に対するアンケートの「1. 組織的な推進」として「学校全体の学力傾向や課題を全教職員の間で共有する」、例えば交野小学校なら「オール交小で」という部分が、数字を見る限り小学校が中学校と比較しても圧倒的に低いのではないかとところが少し気になります。これらの点について、教育委員会としてどのように捉えているのか、あるいは今後の対策としてどう考えておられるのかを、教育長も含めてお聞きしたいと思っています。やはり先生が一丸となってするか否かということ、子どもに対する影響が大きいのではないかと思います。中学校ではそこが75%で、学校としての一体感があります。小学校の「チーム学校」としての取組はどうなっているのでしょうか。

尾崎職務代理者 ご指摘いただいたところのデータでいうと、非常に乱高下している、平成25・26年度には50%であったのが平成27年度は80%、平成28年度は70%になり、今年度は40%に下がっており、非常に問題であると思っています。これについて教育委員会でも学校長を含めて指導ということで論議したことがあり、その際に私が提案し

たのは、保護者も含めて、職員全体が、どのような学力テスト問題を受けているのか認識し、保護者に対しても「このような問題が出ていて我が校ではここが弱いんです、保護者の方も注意を向けていただいで…」ということ例えば学校便りなんか載せて、保護者にも知ってもらうことで、職員だけでなく保護者も一丸となって意識を持つのが大事ではないかと提案させていただいた。

学校によって、先進的に学力テストの問題に職員全員が取り組んでいる学校とそうでない学校があったということですので、その点について議論させていただきました。平成 29 年度の学力テストは終わったあとでございましたが、今後、そういった指導を行って参りたいというところがございます。ですので、市長にご指摘いただいた点についても十分に考えないと、思っているところです。

黒田市長 後はそうですね、今のお話の感じだと、自学自習が原因の取り組みですよね。要は、先生が居ないところでどれだけ勉強させるかということですね。これはたぶんどこでも一緒だと私は思っているんです。そこは先生によっても若干変わるのかもしれないかなと思うんですけど、目の前に居ている間はやると、でも、居ていない時の方が圧倒的に多い訳ですから、その辺りをどうするか。小学生と中学生だと、中学生の場合はだんだんと受験というものが目の前に控えてきますから、好もうと好まざるとやらざるを得ないというようなことになり、自学自習を意識しながら学生生活を過ごしていく訳ですけども、その辺りは教育委員会としてはどのように対応しようと考えておられますか。

事務局 家庭学習の手引きを 3 年前に作成し、自学自習に誘うようにしている。学校教員が家庭まで出向いて、自学自習をなささいと言うのは自学自習にはなりませんし、家庭の中まで踏み込むのは如何なものかというのがございますので、手引きを作成し、かなり細かに家庭でこういう教育をしたいといったことを強く周知したことがある。厳しい言い方をしますと、それが若干中だるみをしているのかなと思う。こういった結果を踏まえて、自学自習のために、その家庭学習の手引きがそのままいいのかどうかということも含めて検討して改定するとか、あるいは、学力テストがこうなんだよというところで、家庭の中で話題にあがりましてらば、宿題以外の勉強もやらないとねということが話になればですね、自学自習につながっていくんじゃないかと思っています。やはり、家庭の中でのご協力を得るとというのが、かなり大きなことなのではないかと思っております。

尾崎職務代理者 その手引きも配布しているだけではなくて、ちゃんと具体的な説明もつけているんですか。

事務局 先ほどの学校体制の中で学年としては、PTA 総会等でこういった手引きを配布していて、このような内容が書いてありますといったことを説明しているところもあるが、配りっぱなしというところもある。最近の小中連携、小中一貫ということで、6 年生の子どもた

ちに対して、中学校の生徒指導の教員が訪問して、中学校に入ったらこういう勉強になって、こういう手引きがあつて、このような形で勉強するんだよといったことを、子どもたちや保護者の方に説明するという取り組みをしている。学校によって十分な説明ができていないところがあれば、きちんと指導してもらえようをお願いしようと思っております。

黒田市長 今日のところは限られた時間ですので、大きなところから述べさせていただくと、私の方からは、他の委員の皆さまが仰るとおり、これはまさに教育委員会の本分であるテーマでございますし、この事実を踏まえて色々な改善をして、しっかりと子どもたちの力につなげていただければというのが私としては最大の願いでございます。決して結果至上主義ではなく、一つの客観的な子どもたちの状態であるとか、やはりどんどん伸びてほしいという思いでございます。今日は後ほど予算の意見交換もあるかと思っておりますので、その時に色々意見交換をさせていただきたいと考えております。委員の皆さまにおかれましてはいかがでしょうか。

尾崎職務代理者 最後に一言だけ。行政がしていただくこと、あるいは教育委員会が学校を支えることは、非常に子どもにつながっているというところで、35人学級だけではなくて、例えば交野市では理科専科が広がっていて非常に充実しているんですね。今年度の中学校の受験に関わります府のテストが非常によくできているということの背景にそういったことがあるんじゃないかと思うんです。説明はダイジェストでしているため、成果としてどうなんだと感じられた部分もあったかもしれないが、市や教育委員会がやっていることは子どもを非常に支えているという一例として挙げさせていただきます。

黒田市長 中学生がここまで伸びて来ているというところは、明確な成果だと思っている。こういった良好な部分については、さらに、これを定着させていただきたいと思っておりますし、こういった結果につなげていただいた学校現場の先生方に感謝申し上げたい。他にございませんでしょうか。他に意見等ございませんでしたら、次の議題に進ませていただきたいと思います。

【議題：学校規模適正化について】

黒田市長 では、続きまして、次第3にございます学校規模の適正化についてを議題といたします。この案件は、学校教育審議会で、現在、諮問していただいているかと思っております。ご審議いただいているこの案件につきまして、これまでも総合教育会議の場におきまして、随時その審議の進捗状況等について、協議させていただいて参ったところがございますが、本日はこれまでの進捗状況について報告いただきまして、市と教育委員会とでしっかりと情報共有を図って参りたいと思っております。それでは、本日配布させていただいてい

る資料に基づきまして、事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局 事務局より資料2に基づいて説明

黒田市長 説明はお聞きの次第でございます。この件につきましても、教育委員会の方で現在、学校教育審議会の方に、学校規模適正化基本計画と学校施設等管理計画を来年の7月を目途に成案化する流れでご議論いただいております。そして、その中でも一中校区については、来月から懇談会の時に、より関わりのある方々からを交えて、色々と意見に配慮しながら精度を高めていくという流れでございます。委員の皆さまにおかれましては、これらの手順等をご存知のことと思っておりますが、何かご意見等ございましたらよろしくお願いたします。

亥埜委員 先日資料をいただいて、長宝寺小学校と郡津小学校を統合するとか、交野小学校と長宝寺小学校を統合するとか、いろいろな案を見させていただいたんですけれども、もし、長宝寺小学校を維持させるのであれば、郡津小学校からも地域の子どもを長宝寺小学校に入れたとして、郡津小学校が減った分、倉治小学校の校区が増えるので、その分また校区編成してとなると、一中校区だけでなく、二中校区にも関わってくる問題なので、二中校区の方も懇談会には必要なのではないかと。

事務局 今回この一中校区の懇談会の中では、ゼロから議論するというのではなく、二中校区の方も入っていただいております学校教育審議会の方で、一中校区から四中校区の案の中でご検討いただいた中で、長宝寺小学校の小規模化と交野小学校、第一中学校の老朽化という流れがありましたため、一中校区となっているところでございます。もう一つは、小中一貫教育ということを考える中で、今現在基本的な考え方の中では、現在の中学校区、これを基本として進めていくということになっております。併せまして、一中校区の長宝寺小学校と二中校区の郡津小学校につきましても、距離的にもかなり近い位置にございますので、長宝寺が減ったら郡津に融通してよという意見がそういう場にも出てきておりますが、ただ、もう一つの課題といたしまして地域性があります。例えば、今、亥埜委員が仰った中で言いますと、現在の郡津という区を割ってしまって、一部を一中校区に入れてしまうということになりますし、更に倉治の一部を割って郡津に入れるということになりますと、地域性の観点などからもなかなか課題が多いという意見が出ております。ただ、議論の中で色んな考え方を全て排除するといった訳ではございませんので、そういった意見が出てくれば議論をさせていただきます。今は長宝寺小学校を維持するという議論ですが、全体の流れと言え、子どもたちの数がほぼ半分になってきている。更に今後の20年後ぐらいでは、ピークに比べて三分の一くらいに落ちてくるという中で、当初ピークの時にあった14校全ての学校をずっと維持していくというのは可能なのかという議論もございまして、それも含みまして全体像としては審議会の中では考えていきたい。

黒田市長 全ての可能性を排除せずに、テーブルに乗せて、学校規模適正化という話を達成するために、校区編成によって適正化していくという方法もあるが、それが果たして地域性も含めてどうなのかといった議論もして頂いているところです。単に生徒数を合わせるといったことであれば、当然、学校を統合すればいい。ですが、それを都度してしまうと、コミュニティや地域性に問題が出てくるといった議論をして頂いているということですね。

尾崎職務代理者 可能性のある案を、まず全て検討していただいて、より望ましいものに収れんさせていくことが、懇談会の目的であるかと思いますが、かといって、教育委員会側がどれでも結構ですよというのは主体性がないので、全ての案について排除はしないけど、こういうことが様々な観点から望ましいですよといった説明がない限り、議論にもなりませんので、特に私たちは小中一貫教育という視点がないと非常に難しいかなと思います。他市等の事例で恐縮ですけども、地域を割るということになりますと、様々な混乱が起きまして、市民が混乱するといったことがあったため、そういったことは避けたいと考えている。そうならないように指針を示すことは非常に重要な点ではないかと思っています。

黒田市長 これはあくまで現在の進捗状況ということでございますので、これから色んな考え方をするための視点についてご意見を頂けたらと思うのですが、他にございますでしょうか。では、細かい話になってしまうのですが、この懇談会のメンバーの集まり具合はいかがでしょうか。

事務局 今現状では、まだ定員には達していないところでございますが、締切ぎりぎりという方も多いかと思います。

黒田市長 私の方からは、この懇談会は12月から来年の3月にかけて行い、その間に、先進事例見学もしていただくということで、非常にご苦勞もおかけすることになりますが、しっかりと関係される方々に理解を深めていただける機会になればと思っております。他にございませんでしょうか。

黒田市長 この件は引き続き教育委員会の方で、いろんな意見をいただきながらも主体性をもってこれからの子どもたちの学び舎の再編計画を立てていくということでよろしくお願いいたします。

【議題：地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条に伴う平成30年度予算に係る意見交換について】

黒田市長 続きまして、次第4といたしまして、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条に伴う平成30年度予算に係る意見交換について」を議題といたします。

現在、教育委員会を含め、各部局において、来年度予算の編成に取り組んでおるところでございます。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条」では、「地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち、教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見を聞かなければならない」とされております。

このことから、本日、総合教育会議の場で、30年度予算に関しまして、教育委員の皆様からのご意見を頂戴したいと考えております。

すべての予算事項について詳細にご説明をさせていただくのは時間的に困難でございますので、本会議では、教育委員会として、特に来年度、重点施策と考えている予算事項を中心に、まずは所管部局よりその概要について説明をさせていただき、その後、皆様からのご意見を頂戴したいと思います。

事務局 各予算項目説明

黒田市長 説明は、お聞きの次第です。先ほどは伊丹委員の方から学力の調査結果を踏まえて図書アドバイザーの意見をいただいたところですが、みなさんご意見がありましたら、どうぞよろしく申し上げます。

伊丹委員 指導課の方で交野市小中一貫学園構想事業の中でプログラミング教育を進められると聞いておりますが、子どもの論理的発展に寄与されるということで注目されていますが、お伺いすると子どもさんも積極的に興味をもって取り組んでおられると、今回はペッパーというロボットを使用してと聞いていますが、そういったことでより興味を持ってもらうことにつながっていただければと思います。プログラミング教育が本当に論理的思考へ結びつくのかということは、単年でなかなか図れなくて、将来的に結果を追っていくしかないかなと思いますが、単にプログラミングだけでなく、子どもたちが勉強に興味を持っていただくきっかけになるのかなと考えていますので、たくさんのふれあえる機会をもっていただきたいです。

黒田市長 要望ですね。ひと通り来年度予算要望について担当課からお話いただきましたが、特にとこういうものがあればよろしく願いいたします。

尾崎職務代理者 総合的に次の4点については市長にも当然のことでないかと認めてもらえるか

などと思うところなのですが、4点の1つは各施設を長く使うための予算です。これは優先的にやってもらうことが予算を効率的に使うことになると思います。2つ目は要項であるとか基準を下回っているものは改善していただかないといけない。3つ目は類似いたしますが、法の定めがあるもの。4つ目は補助金がついているものです。国なり府なりがそのように誘導していることもありますので。そして私が強く要望したいのは小・中学校特別教室空調機設置工事です。私も学校現場におりましたので悲願です。特別教室ですので学校現場だけでなく、地域住民に開かれることもあろうかと思えます。特別教室は地域コミュニティにも関連するような取組になると思います。予算はたくさんかかるものですが、よろしくお願ひしたいです。

黒田市長 尾崎職務代理者からは特にハードの部分。維持管理にかかる経費の部分ですが、はじめの1点目から4点目の話は私も同感です。それは財源があるとかないとかではなく、いつかはやらなければいけない話です。それは単に早いか遅いか先送りしてるかというだけの話ですから、ものはいつか経年劣化しますし、例えばオートクレーブは子どもの健康にかかわる、医療器具の殺菌滅菌の機械で20年使っていると、これは更新し子どもの健康にあたるべきだと思います。施設を長く使うことを目的に3か年計画で防水工事をしている。今まで市として予算化していなかったが、残りの部分を実施する最終年度で何とか予算化とは思っています。あとは空調の話、大きなしくみとなるわけですが、今日は基本的に皆さんの思いを受け止めさせていただこうと思えます。

事務局 経常の方はヒアリングを実施させていただいております。今月末から投資的な経費のヒアリングを実施させていただいております。当然尾崎職務代理からいただいた視点というのは基本的な視点として考えていくと、投資を単年度ですべていくというのは無理な話ですので、優先順位をつけてヒアリングを実施させていただこうと思えます。

黒田市長 それから伊丹委員の論理的思考でプログラミングということですが、教科でいうと算数・数学、国語も論理的思考が求められますし、先生が専門の法律というものは極めて論理的思考が求められると思えます。レゴ型ロボットやペッパー君、これはこれでITを含め、子どもたちの感覚的には必要なんだと思えますが、予算の要求でプログラミング教育で一步進めたいという想いはお聞かせいただきましたが、あえて私は先ほどの学力テストを持ち上げてではないんですが、従来型の学習でも論理的思考の訓練をぜひ学校現場でお願いしたいなと思えますし、そのためには学校だけでなく家庭学習を含めて、しっかりといろんな場面でトレーニングをしていただけたらとお願いしたいです。予算そのものについては各担当部同士で予算編成に向けて協議調整をさせていただこうと思えますので、よろしくお願ひいたします。

教育の中身の部分で、この部分をというものがあればご意見いただきたい。見ていますと経常予算を縮小する中で、多少増額されている事業もある。それも踏まえてここはダ

ウンサイジングしたけどここは力を入れたいというものがありましたらご意見を伺いたいのですが。

事務局 学校教育部の指導につきましては、教育センターの人件費分を昨年に引き続き減らしていますが、そういう中で子どもたちに予算をまわしたいという思いでありますし、プログラミングもそうですし、英語の充実や職員のための先進市の研修等、国・府の補助金も活用しまして現在の授業を拡充したい。そういう思いで予算編成をいたしました。

黒田市長 特にプログラミング教育だけでなく、英語力。英検の機会を作って学習意欲を高める。また、使える英語をめざすと。交野小中学校学力支援事業、先生のレベルアップの授業として、私も成果を定着させるためには指導者にはしっかり研鑽を積んでいただきたいです。先生たちが経験を積み上げていくための一定の費用については子どもたちにとって大事な必要な費用だと思いますし、良い指導者と巡り合うことは子どもたちにとって大変幸せなことだと思います。

尾崎職務代理者 英語の弁論大会は良いですね。

黒田市長 これはエントリー料ですか。

事務局 交野市で交野の小中学生に発表してもらうものです。市長賞や教育長賞を決めて、子どもたちの励みになる他、学びの発表の場として活用するものです。

尾崎職務代理者 これは四條畷や大東では十数年前から日本語で実施しているんです。交野は英語でと考えているみたいです。

黒田市長 これからはコミュニケーションできる英語というか、専門用語を知っているではなく、まずは相手が何を言っているのかを理解しある程度レスポンスできる能力が必要となってきますし、インバウンドと言っていますが、これからはもっと身近に海外の人と共存する時代が近づいてきていると思いますし、これまでの筆記だけではなく通じる英語を早い段階でやっていかないと追いつかないと思います。

他に特に思うこと等ございませんでしょうか。そうしましたら、これで次第4については終わりとさせていただきます。続きましては、次第5その他に移ります。せっかくの機会ですから、何かございましたらお願いいたします。特にないようでございますので、これを持ちまして、平成29年度第2回総合教育会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

※本議事録は、発言者の要点をまとめているものであり、発言全てを記載したものではありませんので、
ご了承下さい。